

陸産貝類とは陸上にすむ巻貝の仲間で、一般にカタツムリとい
 われています。水中では生きられず、遠くに移動できないことか
 ら、独自に進化して固有種になることが多いといわれ、宮古諸島
 に生息する20科45種のうち、約4分の1の10種が固有種です。

実は「カタツムリ」というグループはない。

ピサムーナ

アカマイマイ

殻径20~30mm

赤く平べったい

よく見かけるが実は固有種。

おヘソがとて大きい

固有種(下地島を除く)
宮古島市保全種(2005)

オームーナ

アオミオカタニシ



環境省RL(2020)準絶滅危惧 I 類
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧
殻径15~17mm

「青い身の陸にいるタニシ」

みどりいろから緑色は殻ではなくからだの身体の色が透けて見えている。

オキナワウスカワマイマイ

マームーナ



沖縄で一番よく見られる種。昔は食べていた。

殻径最大4cm

サキシマヒシマイマイ

殻径16~26mm

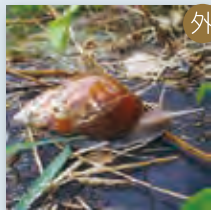


固有種
環境省RL(2020)絶滅危惧 I 類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧 I 類
宮古島市保全種(2005)

ほかの島では絶滅し、宮古諸島でだけ生き残った遺存種。平たい殻と模様が特徴的。

ナンヨームーナ
タイワンムーナ

アフリカマイマイ

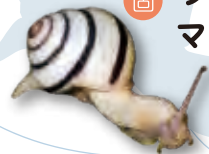


外 東アフリカ原産の外来種。食用として持ち込まれた。

寄生虫に注意 殻径最大16cm

ウラキヤマタカマイマイ

殻高23mm 殻径24mm



固有種
国内希少野生動物植物種(2017)
環境省RD(2020)絶滅危惧 I 類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧 I 類
宮古島市保全種(2005)

宮古諸島では大型の陸貝。樹上によくいる。

「殻の裏が黄色くて殻の山が高い」

フタのない陸貝
フタがある陸貝

ミヤコオカチグサ

殻高6mm



固有種
環境省RL(2020)絶滅危惧 I 類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧 I 類
宮古島市保全種(2005)

湿った岩壁にいる。一時絶滅したと思われていた。

ミヤコオキナワギセル

ナガチビムーナ チビムーナ



固有種
環境省RL(2020)絶滅危惧 I 類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧 I 類
宮古島市保全種(2005)

ギセルガイは殻が左巻き。宮古諸島で確認されている生息地は1か所のみ。

ギセル タバコを吸う道具

小さいから「ノミ」ギセル

タラミノギセル



固有種
殻長1cm

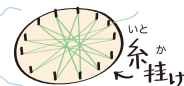
多良間島で最初に発見された。木の根元などによくいる。

イトカケマイマイ



固有種
環境省RL(2020)絶滅危惧 I 類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧 I 類
宮古島市保全種(2005)

転石などにいる。宮古諸島で確認されている生息地は1ヶ所のみ。



ミヤコヤマタニシ



固有種
環境省RL(2020)準絶滅危惧
宮古島市保全種(2005)

模様のバリエーションが多く、たまに模様のない個体もいる。

ハダカアツブタガイ

殻径5~8mm



固有種
環境省RL(2020)準絶滅危惧
宮古島市保全種(2005)

フタが厚く、泥をまとっていない。「カタツムリ」的に「ハダカ」

ヤエヤマヤマキサゴ



殻径3~4mm

アマオブネという海の貝に近い種。葉の上などにいる。フタは薄く透明なので見えない。

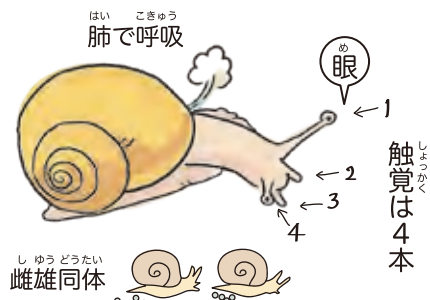
ミヤコゴマガイ

落ち葉の裏にいる。

殻高3~4mm 固有種 宮古島市保全種(2005) とにかく小さい!

意外と知らない陸産貝類

マイマイのなかま=カタツムリ



雌雄同体

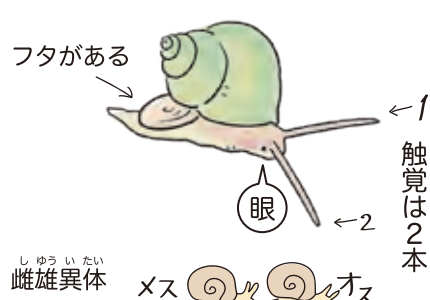
どちらも卵を産む

休眠するときはエピラムという薄い膜をはって乾燥を防ぐ。



ムーナ

タニシ・アマオブネのなかま



雌雄異体

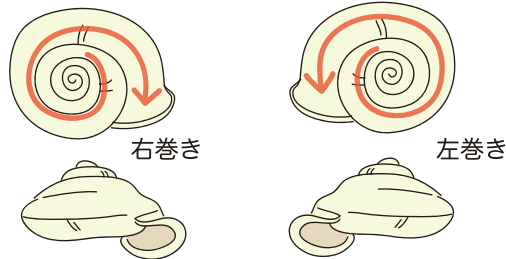
メス オス

休眠するときはぴったりフタを閉じて乾燥を防ぐ。

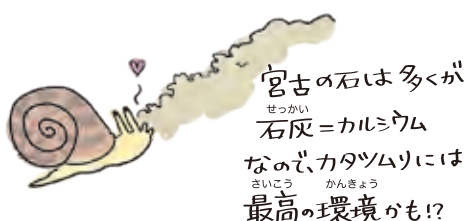


イスムーナ

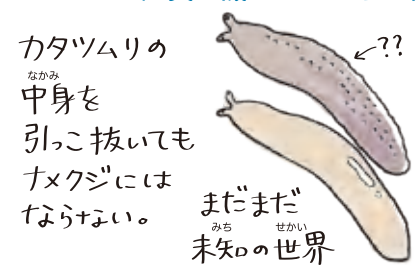
カタツムリの多くは右巻きで、殻が時計回りに成長します。キセルガイは左巻きですが、左巻きのカタツムリはあまりいません。



殻をつくるために石やコンクリートを食べる!



ナメクジは陸貝の殻がなくなった種



野外観察のときに気をつけること

生き物を触ってみたいときは?

触る前と後で、必ず手を洗いましょう。野生生物には寄生虫やダニ、病原菌を持っているものがあります。生き物を触ったあとは、手で目や口の周りを触らないよう注意しましょう。



生き物を探すために掘った穴や、ひっくり返した石は?

できるだけ元に戻しましょう。環境が変化してしまうと、そこにすむ生物に影響してしまいます。



生き物を観察するために、遊歩道から外れてもいい?

むやみに林内に入るのはやめましょう。ケガの危険もありますが、歩いて土を固めてしまったり、エサとなる植物を傷めてしまうなど、環境が悪化することがあります。



落ちている野鳥のヒナなど、保護しても大丈夫?

基本的にはできません。ただ、事故にあう危険性がある場合は、場所を移すことができます。他の希少生物も同じです。



特定外来生物を見つけた。捕獲・駆除したほうがいい?

正しい捕獲・駆除の仕方を知らないと、きちんと駆除できず、逆に拡散してしまうおそれがあります。市の環境衛生局に問い合わせるなど、自治体の指示に従いましょう。



むかしむかし、山の中でネズミとヤドカリが出会いました。お互いに名前を知らないの、ヤドカリは「私の名前はカサというのさ」と、ネズミは「私の名前はコラマタというんだよ」と、自分の名前を言いました。なんとも不思議な名前です。「それでは、その名前が本当かどうか確かめようじゃないか」ということになり、2匹で山の中に入ってきました。

すると、そこには枯れ葉が落ちていて、ヤドカリはその上を重たい殻を引きずって歩くものだから、枯れ葉がカサカサと音を立てました。

「ほらね、木の葉も私のことをカサカサと呼んでいるでしょう」とヤドカリが言います。

ネズミは『なるほど、これは本当だな』と思い、「では、今度は私の名前を確かめに行きましょう」とヤドカリを誘って人の家の中に入って、押入れのすみをガリガリとかじったのです。

すると、その家の主人が「コラマタ！」と大声で叫ぶ声が聞こえました。

ネズミは「ほらね、私の名前もコラマタに違いないでしょう」と言いました。



参考：『ゆがたい—宮古島の民話 第4集—』ねずみとやどかり (1984)

むかし、いまより遠い山に行きたいと思っているカエルがいました。そんなときに、イノシシと出会います。カエルは、「そうだ、イノシシに乗って行こう！」と考え、イノシシに「あの山の下まで誰が早いか背負いっこ勝負をしよう」と声をかけました。ところがイノシシは「君は私を背負うことができるのか？」と疑います。カエルは「なにいつてるんだ、体は小さくても力持ちだから問題ないよ。それじゃ、初めに私を背負っておくれ」と言いました。

そして、イノシシがカエルをのせてめざす山の下まで行ってくれたので、カエルは大喜び。

「さあ、今度はお前の番だ」とイノシシが言うと、カエルは「どうぞ乗ってください。でも空だけを見ていてくださいね」と言うのです。

イノシシは言われたとおりに空を見ていると、風が強くと吹いて、雲がどんどん後ろへ飛んでいきます。「なんと、君は全然進めないだろう

と思ったのに、私より早いじゃないか！」と感動して「もう十分だよ」と言って地面を見ると、なんと、さっきと同じ場所にいるではないですか。イノシシは「どうしたことがいい！」と大変怒りました。すると、カエルは「だましてごめんなさい。許してくれたら、あなたたちが田んぼでお米を食べる時、すぐに仲間を呼んで一斉に鳴いて、あなたたちが食べている音が聞こえないようにしてあげますから」と謝りました。

イノシシも「そんなことであるならば」と許してあげました。

それからというもの、春のうりずんの季節になると、カエルが大声で鳴くそうです。



参考：『ゆがたい—宮古島の民話 第2集—』蛙と猪の知恵くらべ (1980)

がいらいしゅ い す ひろ
外来種 入れない、捨てない、拡げない

がいらいしゅ とはもともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって外から持ち込まれた生物のことです。船の貨物に紛れ込んだり、衣服に付着して移入することもあります。日本の生物だとしても、もともといなかった地域に持ち込まれた場合は、外来種となります。宮古諸島でも、外来種が生態系に影響を与えています。

しんりやくてき がいらいしゅ
侵略的外来種

在来種とエサや棲みか
 が同じで競争しあつた
 り、在来種と交配して
 雑種が生まれてしまう
 もの。

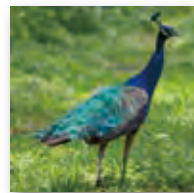
とくてい がいらいせいぶつ
特定外来生物

海外から入った種のうち、生態系や人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすおそれがあるもの。

がいらいせいぶつほう
外来生物法

特定外来生物の輸入、運搬、放出、飼育、譲渡の禁止、防除などを定めた法律。個体だけでなく卵なども含む。

たいさく せつぎよくてき ぼうじょ ひつよう がいらいしゅ
いそいで対策し、積極的に防除を行う必要がある外来種



インドクジャク

緊急対策外来種(環境省)
 指定外来種・重点対策種(沖縄県)

オス 全長 180~230cm
 メス 全長 90~100cm

じゆみやう ちゆうこうせい よる じゆ
 寿命は20~30年。昼行性で夜は樹上
 じょう やす
 で休息。なんでも食べる。ペット
 が逃げて野生化したとされる。ミヤ
 コカナヘビなども食べている可能性
 たか かんきようほ ぜんか
 が高く、環境保全課が2050年まで
 こんぜつ もくひょう た
 に根絶させる目標を立てている。



ニホンイタチ

緊急対策外来種(環境省)
 指定外来種・重点対策種(沖縄県)

頭胴長 オス27~37cm
 メス16~25cm

撮影：慶留間島

おもに夜行性。なんでも食べる。
 1966年にネズミ対策として宮古に導
 入。フンからミヤコカナヘビの骨など
 が発見されている。現在、県が捕獲作
 業と生息状況調査などを行っている。

※クジャク、イタチは許可なく捕まえたり、放し
 たりすることは法律で規制されています



写真提供

- 荷川取牧場 扉絵
- 鳥羽水族館 ジュゴン
- 城間恒宏(糸満高等学校)
 クマネズミ/ドブネズミ/ニホンイタチ
- 田村常雄
 オキナワコキクガシラコウモリ/アブラコウモリ
- 仲地邦博(宮古野鳥の会)
 サシバ/アカハラダカ/ヨナグニカラスバト/キンバト/キジバト/チュウダイズア
 カアオバト/ヒヨドリ/イソヒヨドリ(雄)/シロハラクイナ/リュウキュウキビタ
 キ/ミフウズラ/サンコウチョウ(雄)/アカショウビン/エリグロアジサシ/コアジ
 サシ/ベニアジサシ/マミジロアジサシ/ズグロミゾゴイ/ゴイサギ/リュウキュウ
 ヨシゴイ/コウノトリ/ミサゴ/リュウキュウツバメ/スズメ/セッカ/インドク
 ジャク
- 当山昌直
 ミヤコカナヘビ/ミヤコヒメヘビ/ホオグロヤモリ(成体・足裏)/ミナミヤモリ
 (成体・足裏)/オンナダケヤモリ(成体・足裏)/サキシマヌマガエル/ヒメアマガ
 エル/シロアゴガエル(卵)
- 佐藤宣子(宮古島市教育委員会)
 サキシママダラ/サキシマスジオ
- 藤田喜久(沖縄県立芸術大学)
 ヤシガニ/ヤシガニ(抱卵)/ヤシガニ(ゾエア)/ヤシガニ(グラウト工)/ヤシガニ
 (殻を背負ったグラウト工)/貝殻を背負ったヤシガニ/オカヤドカリ/ムラサキ
 オカヤドカリ/ナギオカヤドカリ/コムラサキオカヤドカリ/オオナギオカヤドカ
 リ/サキシマオカヤドカリ/オカガニ(放卵)/オオオカガニ/ムラサキオカガニ/ヒ
 メオカガニ/ヤエヤマヒメオカガニ/ヘリトリオカガニ/ミヤコサワガニ/稚ガニ
 を抱えるミヤコサワガニ/サキシマヌマエビ/コンジテンナガエビ/モクスガニ/
 ドウクツヌマエビ/ウリガーテナガエビ
- 宮古島市総合博物館
 ミヤコヒバ/アカマイマイ/アオミオカタニシ/オキナワウスカワマイマイ/サ
 キシマヒシマイマイ/アフリカマイマイ/ウラキヤマタカマイマイ/ミヤコオカチ
 グサ/ミヤコオキナワギセル/イトカケマイマイ/タラノミギセル/ヤエヤママ
 マキサゴ/ミヤコヤマタニシ/ハダカアツバガイ/ミヤコゴマガイ

文化財の体系図

文化財の種類

特に価値の高いもの

特に重要なもの

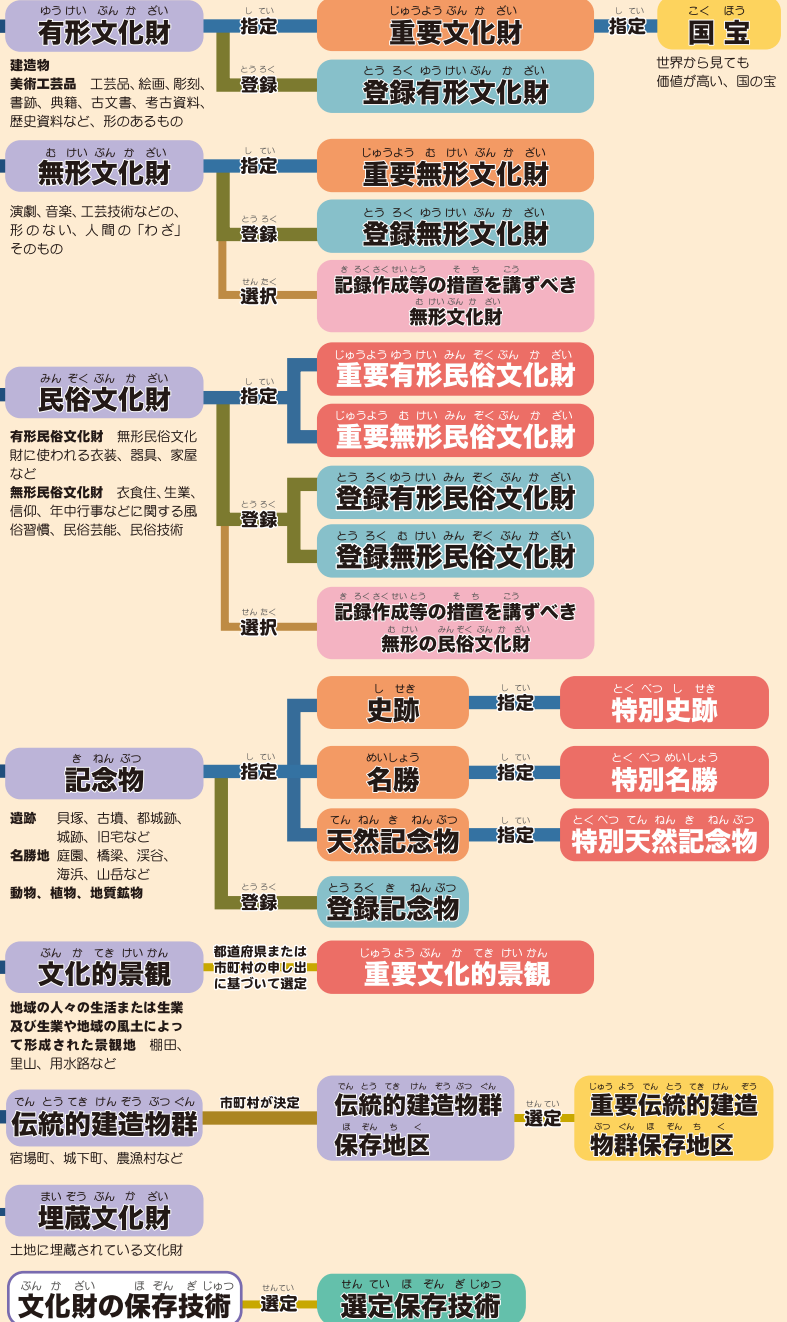
重要なもの

文化財

特に必要のあるもの

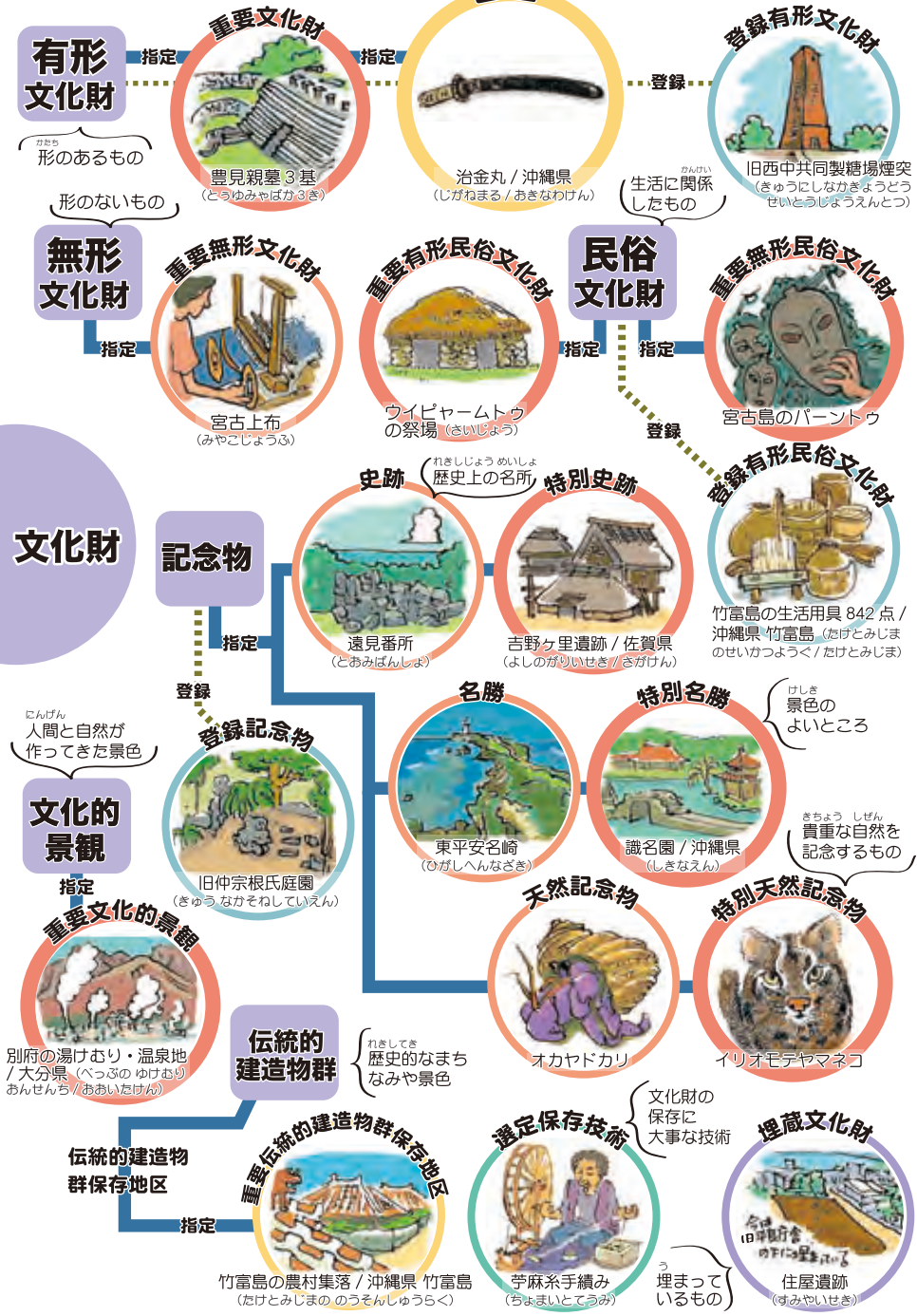
保存と活用が特に必要なもの

保存できるよ考えの必要のあるもの



それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例



わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です

たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



この冊子は非売品です (NOT FOR SALE)

宮古島市neo歴史文化ロード 綾道(自然・動物編)

発行 初版 2025(令和7)年3月
改訂 2025(令和7)年10月

編集・発行 宮古島市教育委員会
〒906-0012 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地
TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976

イラスト・デザイン 山田 光